

## &lt;第9期に向けた環境認識&gt;

- ・経営体制変更に伴う中期経営計画の策定及び見直し「高感度上質、マスから個へ」
- ・会社の戦略変更に伴う組織・要員体制の変更
- ・新型コロナウィルスへの対応（営業体制、収益面の影響、メンバーの働く環境）
- ・収益確保の取り組み、営業利益、当期利益確保の必要性の高まり
- ・アフターコロナを見据えた労働条件、働く環境の整備

**【経営対策活動と現場活動の連携】**

- ・経営懇話会・現場活動に加えてより身近な労使関係、職場懇話会の強化

**【労働福祉活動】**

- ・経営体制の変更により変わる部分と変わらない部分の両軸で協議を進める 一方で業績に応じた雇用への安心感への取り組み

**【現場活動の強化】**

- ・現場活動の見える化、標準化、声を集めるだけではなくその先の課題解決のアクション、メンバーへのフィードバックに繋げる

**【意識変革への対応】**

- ・会社の大きな環境変化に対してメンバーへの理解促進と寄り添い、コミュニケーション深化

## &lt;第9期運動方針における重点政策&gt;

**①労働福祉活動**

- ・戦略変更に伴う人事制度の対応とこれまでの協議内容のバランス、一貫性を持った協議
- ・業績の状況を踏まえた対応（賞与、構造改革）
- ・中長期的な視点を踏まえた検討（60歳以降の制度の対応、フェロー社員の人事制度改定）
- ・新型コロナウィルスへの対応（営業条件、安全衛生、労務対応）
- ・新たな働き方への対応（在宅勤務、時間管理の課題）
- ・職場風土改革（1on1ミーティングの定着・ツールの活用）

**②経営対策活動**

- ・経営対策活動と現場活動との連動の強化
- 経営懇話会の議題設定と執行部全体での意見集約のフロー化の定着
- 職場懇話会を軸とした活動サイクルの強化(より身近なサイクルをより早く、より多くまわしていく)
- ・中期経営計画の理解浸透の取り組み
- ・会社の業績を正確に把握、メンバーへの周知を通じた経営マインドの醸成
- ・構造改革への対応(メンバーの立場にたった対応)
- ・業績の現状を適正に把握し、メンバーに伝えていくことによって健全な危機感の醸成

**③現場活動**

- ・現場起点のあるべき組合現場活動を実現するために、引き続き現場兼任役員の役割の見直しや連携を強化し、現場主体の組合活動を定着化させていく
- ・分会活動（店・営業部）の課題により深く入り込めるよう、活動単位を細分し、メンバーにより身近に実感してもらうことができる活動を目指す、また時間管理の取り組みは各店の課題に応じて具体的な取り組みを進める。
- ・コロナウィルスに関しては引き続き労使で感染対策の観点や継続したメンバーの意識なども労使で取り組みを継続する
- ・制度改定や会社の状況等、メンバーとの対話・納得性を現場活動を通じて情報共有し、モチベーションに繋がる取り組みも継続

## &lt;第9期組織の考え方&gt;

- ・会社の組織体制変更に伴い、8期まで単独分会だった「ユニフォーム・ビジネスソリューション分会」を「本社周辺分会 第二職場区」に変更。これまでの活動、労使関係は専従の担当などを工夫し、単独分会時と変わらないレベルでの活動を継続する。

## < 第9期における分野別活動計画 >

### ①労働福祉活動

- ・60歳以降の制度は現状と中長期的なあるべき姿を踏まえ、具体的協議を進める。
- ・会社の戦略変更に伴う人事制度協議、業績に応じた対応はメンバーの納得性を重視しながら協議を進める。
- ・新たな働き方への対応は労使での時間管理共通テーマ、各分会の課題などにより入り込みながら改善に繋げる。
- ・「対話」を重視した職場風土の醸成を目指し1on1の更なる拡充・浸透を目指しツール活用・教育の実態も含めて取り組む。

### ②経営対策活動

- ・経営懇話会を軸とした現場活動との連動フローの定着・深化に取り組む
- ・職場懇話会を軸とした現場活動との連動のフロー化や仕組み化に取り組む
- ・構造改革の取組みにあたっては、労使での情報共有を踏まえ、メンバー目線に立った取り組みを行う。
- ・会社の方針や決算の状況に関する情報については、機関会議等を活用して共有化の取り組みを行う。

### ③現場活動

- ・テーマ別ボイス等メンバー接点の機会は現場役員発案で企画を組むよう今迄以上のコミュニケーション強化
- ・あるべき現場活動のフローを可視化し、組合役員の取り組む内容をレベルに分け共通認識を持って活動を行う。
- ・分会ごとの活動を強化する為に分野別（ダイバーシティ・社会貢献）は分会マターで行い、より現場メンバーのニーズに寄り添った内容で企画立案を行う。

### ④広報活動

- ・組合活動を広くメンバーに理解・認知してもらう為、組合広報の周知・強化に取り組む。
- ・メンバーの相互理解、働きがいに繋がるような切り口で、読みたい、知りたい広報を作成。
- ・制度、働き方の知識定着を視点に、分かりやすく、見やすく啓発に繋がる広報に進化させる。（QAブログの継続）
- ・メンバーズボイスの動画化、データ化をより精度高く進め、メンバーにとって利便性の高い広報の在り方を検討する。

### ⑤ダイバーシティ推進

- ・支部全体での活動は育児休職者ボイスの他に介護を切り口にメンバーへの情報共有、セミナー開催などを検討する。
- ・各分会・職場の課題に応じた企画の立案、検討、メンバーニーズの高いダイバーシティ活動につなげていく。

### ⑥社会貢献活動

- ・支部全体では「愛の募金」をはじめIMGU全体の取り組みをメンバーに周知、拡散していき、個々で参加ができる「きっかけづくり」の提供をする。
- ・ダイバーシティ同様、各分会・職場独自の企画を検討しつつ、今までの継続企画は本部との連動として継続する。

### ⑦教育サポート活動

- ・メンバーが自ら自身をアップデートさせる機会・自らの人生を豊かにするための支援を行う本部教育受講へ繋げるために、組合教育情報の周知を強化する「いつでも・どこでも・だれでも」自主的に学ことができる教育の推進と、主体的に活用できる「自己啓発支援制度」の理解・活用推進を行う。
- ・支部教育が提供する内容は、メンバーのおかれた環境を踏まえ、主に30代向けの教育体制を検討する。

### ⑧政策・政治活動

- ・公民権行使の啓発活動の実施。
- ・組織内議員の活動に関する情報を定期的に共有と、組織内議員の支援。
- ・IMGU本部や上部団体と連携して日常的な情報共有を行う。

### ⑨組織政策・人材育成

- ・前期に引き続き執行委員・評議員に向けては通年協議の理解と議論活性化の為に勉強会を実施
- ・主に専従に向けては課題解決に繋がる模擬演習やディスカッションを積極的に取り入れ、課題抽出から先のアクションを具体的に取れるよう実際の現場活動、懇話会の場をより想定した教育・育成・OJTを進める。